

特別支援学校小学部点字教科書編集資料

小学部（ 英語 ）

1 原典教科書と分冊の方針

(1)原典教科書

種目：英語 発行者：開隆堂 書名：「Junior Sunshine」

(2)分冊と原典教科書との対応

学年	分冊	原典教科書の対応箇所等
第5学年	5-1	<p>目次</p> <p>Let's study English</p> <p>5年で学習すること</p> <p>本書の使い方</p> <p>3,4年で学習したこと</p> <p>授業で使える20の表現</p> <p>主な登場人物</p> <p>Lesson 1 Hello, everyone.</p> <p>Story Time 1 Let's find something new.</p> <p>Lesson 2 When is your special day?</p> <p>Story time 2 I want something special</p> <p>Lesson 3 What do you have on Mondays?</p> <p>Story Time 3 Let's go to school</p> <p>Let's Check 1 5年2組の仲間たち</p> <p>Our World 1 世界のあいさつと文字</p> <p>Lesson 4 I can draw pictures well.</p> <p>Story Time 4 He is great.</p>
	5-2	<p>目次</p> <p>Lesson 5 Where is the station?</p> <p>Story Time 5 What is your favorite place in Japan?</p> <p>Lesson 6 What would you like?</p> <p>Story Time 6 I'd like something.</p> <p>Let's Check 2 太陽小学校の先生たち</p> <p>Our World 2 いろいろな標識</p> <p>Lesson 7 I love my town</p> <p>Story Time 7 Japan is an exciting country.</p> <p>Lesson 8 My Hero</p> <p>Story Time 8 She is strong. He is brave.</p>

		<p>Let's Check 3 ミーナ先生,ありがとう</p> <p>Our World 3 いろいろなスポーツ</p>
	5 - 3	<p>目次</p> <p>本書で使われる英語点字記号など</p> <p>Sounds and Letters</p> <p>5年で学習した表現のまとめ</p> <p>アルファベット表</p> <p>すみ字のアルファベットの点図</p> <p>ローマ字表 (ヘボン式)</p> <p>やってみよう</p> <p>Japan Map</p> <p>CAN-DO チェック</p> <p>Sugoroku</p>
	5 - 4 (Word Book 5)	<p>目次</p> <p>Word Book の使い方</p> <p>カテゴリー (ジャンル別)</p> <p>さくいん</p>
第6学年	6 - 1	<p>目次</p> <p>Let's think and communicate!</p> <p>6年で学習すること</p> <p>本書の使い方</p> <p>5年で学習したこと</p> <p>授業で使える20の表現</p> <p>主な登場人物</p> <p>Lesson 1 This is me.</p> <p>Story Time 1 Hello, everyone.</p> <p>Lesson 2 Welcome to Japan.</p> <p>Story time 2 This is my lunch.</p> <p>Lesson 3 What time do you get up?</p> <p>Story Time 3 I can study.</p> <p>Let's Check 1 新しい先生や交換留学生との 出会い</p> <p>Our World 1 世界の朝ご飯</p> <p>Lesson 4 My Summer Vacation</p> <p>Story Time 4 This is my summer vacation.</p>

6 - 2		目次 Lesson 5 Where do you want to go? Story Time 5 This is my city? Lesson 6 My Best Memory. Story Time 6 This is my best memory. Let's Check 2 世界の国々について伝え 合おう Our World 2 世界遺産 Lesson 7 My Dream Story Time 7 This is my dream. Lesson 8 My Junior High School Life Story Time 8 Let's think about our future. Let's Check 3 卒業を前に Our World 3 世界で活やくしている人
6 - 3		目次 本書で使われる英語点字記号など Sounds and Letters 6年で学習した表現のまとめ アルファベット表 ローマ字表(ヘボン式) やってみよう World Map CAN-DO チェック Sugoroku SDGs の 17 の目標
6 - 4 (Word Book 6)		目次 Word Book の使い方 カテゴリー (ジャンル別) さくいん

### (3) 分冊の考え方

第5学年 = 全4巻 第6学年 = 全4巻

分冊にあたっては、生徒が利用しやすいように1巻150ページを目安にした。

原典教科書で別冊となっている Word Book は点字教科書でも別冊とした。

Word Book のタイトルが点字教科書では「5 - 4」「6 - 4」となっているため、点字シールで Word Book と貼るなど、児童がわかりやすいように工夫されたい。

随時内容を参照できるよう、英点字表記を理解するための「本書で使われる英語点字記号など」は5年及び6年3巻、原典教科書6年で扱われている SDGs の 17 の目標について6年3巻に収めた。

## 2 編集の具体的方針

点字を常用して学習する児童（以下、「児童」という。）が障害の特性に適切に応じた活動を行うため、視覚的な情報保障が不十分なため活動として成り立ちにくいものや理解しにくい等の題材及び教材については、必要な合理的配慮として、次の1～3に記載する具体的な方針に基づいて「変更」「差し替え」「追加」「削除」しながら点字化を行う。

なお、児童の障害の特性に基づいた点字化に伴う英語科の特質に応じるため4の具体的方針の補足事項を加える。

### 1 認知の特性

視覚から映像による情報処理は全体の情報を一度で把握することや一部分を詳しく把握すること、全体と部分を比較しながら捉えることが容易である（即時的把握）。一方、言葉（音声の聴取）による情報処理には、一つ一つの情報をつなぎ合わせて理解することから、距離や方向などは、初めから終わりまでの全ての情報を得た後、記憶をたどりながら全体像をとらえることとなる（継次的把握）。

このような認知の特性があることから、即時的把握により理解を深める題材等において、継次的把握に必要な情報を補足するとともに、伝える情報は本質的な内容を選び出し情報を省略したり、図や表等を文章化したり数値化したり、補足の情報を加えたりする必要がある。また、他の保有する感覚を総合的に活用するための配慮が必要となる。

#### (1) 視覚以外の保有する感覚に依存した生活に基づいた配慮

①児童が保有する視覚以外の感覚からの情報を活用して、対象とする事物・事象について深めていく過程を捉えるため配慮する事項について

②視覚に依存していない生活経験からは理解が難しい事柄について

・配慮事項として、単元の中で取り上げることで、児童の生活経験として知識を習得することが望ましい。

#### (2) 視覚的な情報に依存する認知処理に基づいた理解に伴う困難さが生じる場合の配慮

①視覚的な美しさや感動など、事物・事象について視覚的な情報の保障とともに経験の積み重ねによる感情的な意味付けがなければ理解が難しい事項について

②イラストや写真等の理解が難しい事項について

③図や表の理解が難しい事項について

## 2 作業・操作技能の特性

視覚以外の感覚で活動する児童の場合、対象物の様子などを言葉にして情報を与える働きかけが、児童が対象物を注意深く確認しようとする意識を引き出したり、確認している対象がどのようなものなのか安心して経験と結び付けながら理解を助けたりすることなどの効果がある。このため、視覚的な情報を中心とした活動となる題材や教材を扱うときは、児童が自ら触ったり、他者から教えてもらったりしながら確認することが必要である。その際、ものの位置関係が把握しやすいように、順序よく丁寧に確認できるようにすることが必要となる。また、必要以上に活動が消極的にならないように正確な情報保障と配慮が必要となる。

#### (1) 視覚的な情報保障に伴う配慮

①観察や実験などに関しては、児童の事物・事象の認識、実験や観察の操作技能などの実験の趣旨を十分に考慮して、項目、用具、方法などに配慮する事項について

②微小なもの、色、天体の観察などのように、児童が直接観察することが困難な事象について

- ③本文中の登場人物の視覚を使った活動については変更しないが、児童の視覚情報を活用する活動に関する事項について
- ④児童が視覚的な情報を活用する活動のため、活動として困難が生じ成立しない事項について

### 3 文字処理や点字表記上の特性

点字の1ページは、18行30マス程度と情報量に制約があるため、原典教科書のレイアウトから内容の関係性や優先順位など文章の流れが分かりやすくなるよう考慮しつつ再配置を行うとともに、情報量の調整や配置の調整なども適宜行う必要がある。また、原典教科書は、文字の大きさにより項目の重要度を表している場合、色や字体で重要項目や強調の意味で使用されている場合、図形や線等を原典教科書に書き込む場合等があるため、点字表記により通常の文字（スマ字）と同等に理解できるよう配慮が必要となる。

(1)表音文字である点字表記上の特性に伴う配慮

- ①必要に応じて漢字の説明や意味の説明を追加した。漢文は書き下し文のみ記載した。
- ②点字表記の特性を踏まえて、番号や記号を付け、枠で囲むなどして、全体の構成が分かりやすいように変更を行った。
- ③学習活動の中で、表を作成したり空欄に書き出したりする課題では、児童自身が実際にノートに筆記できる形式に変更を行った。

### 4 具体的方針の補足事項について

(1)英点字と初めて出会う子どもたちのために、教科書の学習に必要な基本的な英点字についてまとめた「本書で使われる英語点字記号など」を5年、6年の各3巻に掲載した。学習の際に参照するなどして活用されたい。巻末カードは点字教科書では省略したが、指導する教員が作成できるよう、この資料に見本を載せているので参考にしてもらいたい。表紙裏などの付録の配列順序や、各課の内容の割り付け順序などは、点字触読の観点から多少変更してあるが、主な内容の提示順序は、原典教科書と同じである。

2次元コードについては今回の編集では掲載していないが、2次元コードが担う役割は大きくなっている。音声データの活用だけでなく、ゲームの内容の説明など2次元コード内の情報について指導者が十分に補うよう留意する必要がある。

日本文の点字表記の規則については、日本点字委員会編集・発行の『日本点字表記法 2018年版』の本則に従っている。英語の点字表記については、国際統一英語点字協議会(ICEB)で発行している*The Rules of Unified English Braille, Second Edition 2013* によるが、記号等は制限して導入している。今回、教科書で使われる英語点字の記号等については、5 編集の具体的な内容(2)9. でまとめて解説しているので、指導する際に参考にさせていただきたい。

なお、点字表記などの指導における配慮事項については、文部科学省発行「点字学習指導の手引(令和5年改訂版)」第8章第5節 英語科における指導上の配慮事項(285ページ~311ページ)も合わせて参照いただきたい。

※「点字学習指導の手引(令和5年改訂版)」文部科学省ホームページ



(2) 教科書は具体的には以下のように編集した。

① イラストや写真等

これらが使われている箇所では、その必要性を考慮しながら、言葉による説明や点図を作成し、生徒が理解しやすい形に改めた。また、それに伴い必要に応じて指示文を変更した。なお音声に集中する必要があり、音声だけで十分理解出来る箇所についてはイラストの説明を省略した箇所もある。本文等の英文に添えられたイラスト等は、内容理解にあたり直接的な手がかりとなるものは説明に置きかえ、それ以外の箇所については説明を省略した。また、会話をしている人物がイラストからの吹き出しで示されている場合は、人名や言葉で置きかえ、誰の発言なのかが分かるようにした。また、アイコンについては日本語の指示で活動内容が分かるため削除した。

② 文字サイズ・字体・色の違い

文字の大きさにより項目の重要度を表す場合は、マスあけの違いにより示した。英文中におけるイタリック体は他の字と同じ扱いにしている。色の違いについては対応出来ないため省略した。

③ レイアウト

原本では見開きのページで書かれている箇所もあるが、点字では同様の処理が出来ない場合もあるので指導にあたる方は、その事を念頭においていただきたい。各学年とも分冊ごとに目次を作成し、生徒が必要な箇所が検索しやすいように配慮している。

④ グラフ・表

基本的に傾向を知るためのグラフは点図に直し、数字が必要な場合には表に直した。点字では内容が把握しにくい表は、要素を取り出し、分類して示した。

⑤ 点字

英文はフルスペルで表記している。日本文の点字表記の規則については、日本点字委員会編集・発行の「日本点字表記法 2018年版」の本則に従っている。英語の点字表記については、国際統一英語点字協議会 (ICEB) で発行している“The Rules of Unified English Braille” (Second Edition 2013 2019年一部改訂)によるが、記号等は制限して導入している。

⑥ 選択肢の処理

原典において記号が付されていない選択肢は、読みやすさを考慮し、かなやアルファベットによる記号を追加した箇所もある。

⑦ 下線、枠線等の処理

下線による解答・記入欄は、点字表記が難しいため、空欄に置きかえた。また、記入欄が多い箇所は、読みやすさを考慮し、ナンバリングを行った。表の枠線も削除し、項目と内容を記載順に記述した。

⑧ 記号 (かっこ) 等の処理

かっこによる解答・記入欄は、直接記入できないことから、削除した。スラッシュはカンマに置きかえた。また、触読のしやすさを考慮し、説明の中に記載されているかっこ ([ ] や < >) は、触読のしやすさを考慮し、省略または他のかっこ (「 」 や ( )) への置き換えを行った。

⑨ 内容の精選と変更

イラスト内で対象物を探す、語句を線で結ぶなど視覚を必要とする活動は、学習の目的を損なわない範囲で活動内容を変更した。情報量が多いものは、学習上必要な部分を中心に引き上げ、内容を精選して掲載した。

## 5 編集の具体的内容

(1) 体裁・レイアウト（5・6年共通）

1. 表紙裏における表記

英語のタイトルは9マス目から、そのあとに続く太字で書かれた日本語は、行を替えて、7マス目から書き始めた。あとに続く日本語は3マス目から書き始めた。

写真については省略した

2. 「5・6年で学習すること」における表記

タイトルは9マス目から書き始めた。Lesson 及びその目標を3マス目から書き始めた。関連する写真がある場合には、その説明を3マス目から書き始めた。

3. 「本書の使い方」における表記

① 本書の使い方

本書の使い方は9マス目から書き始め、日本語の説明は3マス目から書き始めた。背景が黄色で書かれた Lesson 1～8 や CAN-DO チェックは7マス目から、「1時限目」や「レッスンの終わり」のように背景が青地で書かれているものと Let's Check や Word Book については5マス目から書き始めた。これらに続く日本語は3マス目から書き始めた。

② 本書で使われている記号

記号についているイラストは省略し、文字のみを外国語引用符にはさんで5マス目から、記号の説明は3マス目から書き始めた。ただし、同じ活動でも内容が異なるものは、（ ）内に内容が分かるように示し、文字のあとに続けた。

(例)

□□□□ Let's Try □ (伝え合う)

□□□□ Let's Try □ (発表する)

□□□□ Activity □ (伝え合う)

□□□□ Activity □ (発表する)

原典教科書では取り上げられているが、以下のものは省略した。

- ・ Word Book を活用できることを表す記号
- ・ レッソンの学習テーマと関連する教科等や社会的な問題の例示
- ・ 記録に残す評価を行う活動の5つの領域と3つの観点を表す記号
- ・ QR コンテンツを示す記号

4. 目次ページにおける表記

① 「目次 5－1」などは9マス目から書き始めた。

② 以下のものは1マス目から書き始めた。

Lesson、 Let's Check、 Our World、 Story Time 等

- ③ 1原典教科書と分冊の方針(2)で挙げたものの表題及び Goal 等は行を変え3マス目から書き始めた。表題が長くて2行にわたる場合は、2行目を2マス下げて続けた。表題とページ数との間は2の点の連続線を引いた。なお、表題が英語の場合でも外国語引用符は使っていない。(6の点が付されているので外国語の体系であることが分かるため) Goal のあとの日本語は区別するために第1カギではさんだ。日本語が長くて2行にわたる場合は、2行目以下を2マス下げて続け

た。

- ④ 「キャラクター紹介」は省略した。キャラクターのセリフ自体は該当する箇所に移動し、3マス目から第1星印（ ）を前につけて書いている。

(例) 5年1巻の目次

□□□□□□□□もくじ

□□5年で学習すること . . . . . 該当ページ

□□本書の使い方 . . . . . 該当ページ

□□3、4年で学習したこと . . . . . 該当ページ

□□授業で使える20の表現 . . . . . 該当ページ

□□主な登場人物 . . . . . 該当ページ

Lesson 1 . . . . . 該当ページ

□□Hello, everyone.

□□Goal□友だちに自己しょうかいをしたり、好きなものやほしいものを

□□□たずねたり答えたりすることができる。

5. 「3、4年で学習したこと」、「5年で学習すること」における表記

タイトルを9マス目から書き始め、内容を示すLet's Review!は、改行して7マス目から外国語引用符をつけずに書いた。日本語の指示文は改行して3マス目から書き始めたが、「イラスト」の部分は削除した。英語のセリフや会話は、誰のセリフを言っているのかが分かるようA、B、Cなどを補って3マス目から書き始めた。イラストに対応したセリフや会話は、それぞれ1行あけて表記した。なお、その他の箇所でも同様だが、表記ではA、B、Cなどを補う形で表記しているが、音声ではセリフしか読まれないことを、児童に留意するよう指導して頂きたい。

(例1)

A: Hello. I'm Kaito. I like pandas. What animals do you like?

B: Hello. I'm Rio. I like cats. Do you like cats?

A: Yes, I do.

(例2)

A: Go straight. Turn left.

6. 「授業で使える20の表現」における表記

タイトルは9マス目から書き始めた。内容を示すClassroom Englishは外国語引用符をつけずに、7マス目から書き始めた。そのあとの日本語の指示は3マス目から書き始めた。「授業の始まり」のような白抜きの文字で書かれた、場面を表す日本語は（ ）ではさみ5マス目から書き始めた。数字がついた英文は、3マス目から書き始めたが、教師と児童の対話になっているものについては、「先生」と「児童」を第1カギではさみ、第1小見出しをつけたあとに英文を続けた。

(例)

□□□□ (授業の始まり)

□□1.



□□ 先生 • Hello.

□□ 児童 • Hello.

□□ 2. □ Good morning.

## 7. 主な登場人物のページにおける表記

(5年生の例)

□□□□□□ 主な登場人物

□□□□ 四季小学校 □ 5年1組

□□ Hayashi Natsuki □ 林 夏輝 □ □動物が大好きで、つばめの巣をさがすのが好き。小学校3年生の妹がいる。

□□□□ アメリカに住むベンの友だち

□□ Sophia Jones □ ソフィア ジョーンズ □ □ゲームとスポーツが好き。得意な教科は Computer Science

□□□□ Story Time の登場人物

□□ サンとカイは、ゲーム好きのベンにソフィアとケビンが贈ったフィギュアです。ベンの部屋をこっそり抜け出して、旅に出かけます。

□□ Sun □ サン □ □行動力のあるしっかり者。旅行が好き。

## 8. 本文における配列

本文の点訳は次のような順番を基本として点訳している。(例 5年 Lesson 1)

① 見出し

② GOAL

③ Word Book

④ GOAL 中のめあて 1

⑤ Let's Watch and Think 1

⑥ Let's Play 1

⑦ Let's Listen 1

\* その他 Activity、Let's Listen and Read などの活動は掲載順である。

\* 2 Song Box、Chant Box は、各 Lesson の最後の S&L の後、Around the World の前に挿入されている。

\* 3 Small Talk の位置は掲載順である。(例えば 5年 p16 であれば Let's Try 2 の後)

## 9. 本文における見出し

① 9マス目から書き始めたもの

目次で1マス目から書き始めたものは、本文では9マス目から書き始めた。

(例) Lesson、Let's Check、Our World、Story Time 等

② 7マス目から書き始めたもの

• Lesson、Let's Check、Our World、Story Time 等のタイトル。これらは改行して、7マス目から書き始めた。長くて2行にわたる場合には2行目を2マス下げて続けた。なお、Lesson のタイトル等は英語であっても外国語引用符は使っていない。

• Around the World、Sound Box、Letter Box 等



1. 本文におけるイタリック体は、触読が困難になるので省略した。

2. セリフ並びに会話については、次のように表記している。

① 人物が1人の場合、(例)と書き、セリフを次の行の3マス目から書いた。

(例：6年 p62 Let's try 2)

□□□□Let's Try 2

□□例にならって、… 言いましょう。

□□(例)

□□I want to go to Egypt.

□□I want to see the Pyramids.

② 2人以上の会話の場合、人物にA.Bなどの記号を割り当て、コロン(三)を記号のあとに使って表記した。

A: What day is it today?.

□□三三三三□What day is it today?.

B: It's Saturday.

□□三三三三□It's Saturday.

③ 人物のイラストで名前が特定される場合、コロン(三三)を名前のあとに使って表記した。

Bob: When is your birthday?

□□三三三三三三□When is your birthday?

Ms. Brown: My birthday is July 4th.

□□三三三三三三三三三三三三三三三三三三□My birthday is July 4th.

3. Let's Check における表記

Let's Check は9マス目、Questions と Interview は7マス目から書き始めた。

Questions や Interview のあとにある太字の文やオレンジ色の数字は、5マス目から書き始めた。それ以外は3マス目から書き始めた。

4. CAN-DO チェックにおける表記

点字教科書をぬることは出来ないので、観点ごとに自己評価とコメントを書くように児童に指導していただきたい。チェック方法・自己評価・Lesson 等白抜きになっている箇所はタイトルを省略して5マス目から書き始めた。

技能については、第1カギにはさんで5マス目から書き始めた。それぞれの技能に対して、「わかる」、「使える」及びその内容については3点リーダーのあとに続けて3マス目から書いた。

(例)

□□□□三三聞く三三

□□わかる□□□□□相手の名前やそのつづり、好きなものなどについて、聞いてわかった。

## 5. Sugoroku における表記

消しゴムをコマにすることは難しいので、ふせん等を使ってやっていただきたい。やりやすいように、Start と Goal を除くマスに数字をつけ、3マス目から書き始めた。Start と Goal は5マス目から書き始めた。

## 6. Word Book における表記

### ① 目次

「Word Book の使い方」は、点字教科書では目次と見開きにすることが出来ないので、目次の中に入れ、ページは前ページとしてジャンルのページと区別している。目次ページでの書き方は以下の通りである。

- ・「目次」は9マス目から書き始めた。
- ・「Word Book の使い方」、「さくいん」は3マス目から書き始めた。
- ・ジャンルやさくいんにおけるア行などは1マス目から書き始めた。

### ② 本文

本文においての書き方は以下の通りである。

- ・それぞれのジャンルにおいては、英語はそのまま書き、訳語を第1カギ (⠠ ⠡) ではさんだ。
- ・「さくいん」では日本語はそのまま書き、日本語についている ( ) は第1カッコ (⠠～⠡) を使った。英語は外国語引用符 ( ~ ) ではさんだ。
- ・キャラクターが話す日本語や例文となる英文には3マス目から第1星印 ( ) を前につけて書いている。
- ・単語を区切るスラッシュは用いず、コンマを用いている。
- ・ジャンルは5マス目から、そこに含まれる語(句)は3マス目から書き始めた。
- ・「さくいん」においては、ア行などを5マス目から、各項目は3マス目から書き始めた。

なお、以下のものは削除した。

- ・キャラクターを含めたイラスト
- ・QR コード
- ・小学校や中学校で使う語を示す赤い点
- ・6年の「さくいん」にある6年で新しく学習する語を示す緑の点
- ・原本の右端に縦に並んでいるカテゴリー

## 7. 表紙見返しの記事、写真、さし絵及び、図などの扱い

各学年の表紙見返しの記事、写真、さし絵及び、図などは、内容と直接かかわりのある教材の個所に移したことがある。「5 編集の具体的内容、2. 各巻における内容の配列」を参照されたい。

## 8. ページ数

各 Lesson など (本文においては9マス目より書き始め、それが終わったときは、2・5の連続線を10マス引いてあるもの) は、それが変わるとにページを変えた。5-1~



驚きや感動、感情などをこめた言い方を表すときに文の最後に使われます。

(例) Wonderful!  
(すばらしい!)

4. エリプシス ⋮ ⋮

三つの点で表した部分に自由に語(句)が入れられるときに使われます。

(例) One、 two、 three …  
⋮ ⋮  
(⋮⋮⋮と最後の⋮ ⋮についてはそれぞれ、(9)と(11)で説明します)

5. 角かっこ ⋮⋮⋮ ⋮⋮⋮

あとに置きかえられる語(句)がくるときに使われます。

(例) Turn right[left]. ⋮⋮ ⋮⋮  
(右[左]にまがりなさい。)

6. クエスションマーク ⋮ ⋮

文の終わりにつけて、相手にたずねる文を作るときに使われます。

(例) Who are you?  
(あなたはだれですか。)

7. コーテーションマーク ⋮ ⋮⋮ ⋮

文字や語句を他の部分と区別するときや、会話の内容を伝えるときに、この記号ではさんで使われます。

(例) “On、 In、 Under、 By” Song  
⋮ ⋮ ⋮

8. コロン ⋮⋮⋮

時刻を書くときに時間と分を区切るときや、話している人と話している内容を区切るときに使われます。

(例1) 8:30 ⋮ ⋮  
(8時30分)

(例2) Haruhi: I like apples.

(春陽: わたしはリンゴが好きです。)

9. コンマ ⋮ ⋮

文の中で、切れ目をはっきりするために使われます。

(例) Yes、 I do.

10. ハイフン ⋮⋮⋮

単語のつづりを分けて書くときや単語と単語を結びつけるときに使われます。

(例 1) M\_I\_K\_I. Miki.      ⋮    ⋮    ⋮

(例 2) CAN\_DO              ⋮

#### 1 1.    ピリオド    ⋮⋮⋮

「…です」という文や命令を表す文の最後、または呼び方が省略されるときに使われます。

(例 1)    I like pandas.

(例 2)    U.S.A.

例 2 のような語で文が終わるときには、文の終わりを示すピリオドは使われません。